



倉敷市と災害時の協定を結ぶ

倉敷アイビースクエア（以下、アイビー）は7月24日、倉敷市と災害時における施設利用に関する協定を締結しました。これは、災害発生に伴い倉敷市が避難情報を発令した際に、アイビーを指定緊急避難場所として利用するための協定です。

倉敷市は市内の小学校や公民館等の公共施設を指定緊急避難場所としています。しかし、倉敷地区は特に洪水による浸水想定区域が広く、公共施設だけでは地域住民の避難場所を十分に確保できないという問題を抱えています。

また、倉敷は日本有数の観光地であり、国内外から多くの方



▲ 協定書に調印。左は伊東市長

が観光で訪れます。いざというときにはこの方々の安全にも気を配らなければなりません。このため協定締結という運びとなったのです。今回はアイビーのほか倉敷国際ホテル等近隣の五つの宿泊施設との合同の締結式でした。

協定書を交わした倉敷市の伊東市長は「住民や観光客の安全・安心につながる。多くの人に知っていただけるよう啓発活動にも力を入れていく」とあいさつで述べられました。

アイビーの川頭社長もあいさつの中で「昨今、自然災害はいつ、どこで発生するかわからず心配は尽きない。いざというときには倉敷市と協力して住民の皆さま方、そして観光にきておられる方々を精一杯まもりたい」と述べています。



▲ あいさつをする川頭社長

倉敷は2018年の西日本豪雨災害で甚大な被害を受けました。倉敷の中心部、美観地区は大きな被害はありませんでしたが、昨今の気象状況ではアイビー近辺も決して安心できるということはありません。

アイビーは既に2021年に地元の町内会と、水害時における避難所等施設利用に関する協定を結んでいます。今回はその対象を拡大することになります。

アイビーエメラルドホールの外に防災倉庫を設置しています。備蓄品についても市と協議しながら進めていきたいと考えています。（写真提供…倉敷市）



▲ 館内掲示パネル



▲ アイビーエメラルドホール前防災倉庫

法界万霊塔供養

ほうかい ばんれいとう

8月13日、アイビー駐車場の南側、向山の山腹にある法界万霊塔の供養をいたしました。この慰霊碑については2023年9月号で紹介しましたが、アイビーの前身・旧倉敷本社工場で在勤中に物故された従業員で、無縁となっていた方々のために1929年に建てられました。

以来、途中で供養が途切れた期間もあったようですが、現在もアイビーの幹部がお盆の時期にお花を供えています。

今年は新しくアイビーの社長に就任された川頭社長が初めて供養されました。

（総務部 高橋 亮輔 記）



◀ 法界万霊塔のすぐ近くに旧倉敷本社工場で勤務していた少年の墓碑があり毎年、万霊塔と共に供養しています